



合志市でスイカを栽培している木村匡伸さん（33歳）を取材しました。木村さんは、JA菊池のスイカ力部会の青年部初代部長としても活躍されています。

●工場勤めから農業へ

大津町の高校を卒業した木村さんは、熊本市にあるハム工場に就職しました。数年経った頃、父親の兄である伯父さんから、後継ぎがないので俺の家で農業をやらないかと誘いがあり、自分も自営業に興味を持っていたので思い切って会社を辞め、本格的に農業を始めたとのこと。

それから8年目となる現在、スイカ1・0ha、ほうれん草60a、コマ20aの他、昨年からの飼料米も80a作っており、繁忙期は人を雇うなどして、中心となって働いていると語られました。

忙しいときは休みもとれず、勤めているときより辛いことも多いが、自分で仕事の段取りや経営を考えた

りできるのでやりがいがある。幸い子供にも二人恵まれ毎日が充実していると話されました。

●温度管理で品質が決まる

スイカはハウス栽培なので毎日の温度管理が品質、収穫量に直接響くので重要となる。連棟のハウスの屋根を開閉することで温度調整をするが、屋根は多いときで4枚重ねており、一番上だけが自動開閉になっている。残りは天候等を見ながら自分の手で開閉していくので、スイカ栽培で一番体も気も使う作業だと話されました。

また、品質向上については、スイカ部会全体でも目指しており、勉強会、視察研修等を行って研鑽に努めているとのこと。

●今後の抱負

将来は、規模を拡大し法人化した方がいい。そのことで、新規就農者の技能向上の場として、また高齢の農家の方、離農された方の経験、技術を活かした雇用の受皿としての役割を果たせればと話されました。

●好きな言葉

「臨機応変」

大事なことは大切に守らないといけないが、固定観念にとらわれて、昔どおりで良いと安易に考えないよう、農業全般にわたって臨機応変に対応して行きたいと話されました。

がんばっています



富田さんは植木町の出身。48年前に結婚し鹿央町へ。現在はご主人と一緒に農業をしています。

●ちょっと珍しい野菜も

富田さん宅では、夫婦2人で主に野菜を100a作っています。以前はブローラー鶏の飼育もしていました。しかし、平成3年の台風19号によって鶏舎が倒壊したため廃業することになりました。現在は、山東菜、小松菜、ツルムラサキ、水前寺菜、エンサイ、パセリなどの葉物野菜に、冬瓜、瓜、キュウリ、インゲン、トウガラシ、シシトウ、ピーマン、オクラ、赤ジソ、大根など約21種類を出荷しています。山東菜は半分結球する白菜のような葉物野菜です。また冬場には漬物の他に「祝蕾」という新しい野菜を出荷しています。祝蕾は高菜の一種で、タラの芽に似た葉物野菜です。サラダでの生食、漬物、てんぷらなど幅広く利用できるといいます。

●露地栽培についても

富田さん宅では葉物野菜を露地栽培で作っています。梅雨の時期は雨除けに、冬場は霜よけにビニールをかぶせています。いつも台風などの天候への対策が大変ですとのことでした。

●直売所への出荷についても

富田さんは友人の勧めで平成17年から直売所に出荷するようになりました。朝5時から収穫を始め、キス、腐れ虫などをチェックしながら袋詰め。「葉物野菜はしおれやすいので、1日たったらすぐに引き取り、新しい物と入れ替えます」とのこと。またその際に棚の掃除と商品の並び替えを行います。「直売所に行くことは毎日楽しいです」と言う富田さん。「自分で作ったものを美味しいといってもらえること。直接「いつも美味しい野菜ありがとうございます」と直接言ってくれた人もいました」と話してくれました。

●これからの抱負

富田さんはこれからの抱負として「新しい品種も作ってみたいと思っています。今度ピンク色のサラダ用白菜が販売されるそうなので、種が手に入ったら作ってみたいです」と話します。また、「野菜を提供することで、人の役に立っていきたいです。そして野菜を見て気に入ったら買ってもらいたいです。」とも話してくれました。